

南スーダンPKO「戦闘」日報問題の経緯

12月26日	統合幕僚監部で 日報 データが発見される	1ヶ月後
ことし 1月27日	統幕の 日報 データ発見を  大臣に報告	
	陸自 に「 個人用データ 」として 日報 データが存在と統幕に報告されるが 大臣に報告せず	
2月 7日	一部の 日報 を公開	
13日	陸自 が 日報 データを保管と統幕副長が  大臣に報告	
15日	 大臣が防衛省幹部と打合せ 統幕長から報告	虚偽 答弁?
3月15日	陸自 が 日報 データ保管と報道	
16日	 大臣「 (データ隠ぺいは) 報告されなかった 」と国会答弁	
今月19日	2月15日に  大臣が「 日報 データ保管の事実を非公表とする方針を了承していた」と報道	

陸自の日報隠ぺい、大臣報告は2月13日

2月13日
17:15
大臣室



湯浅陸幕副長

紙はないかとしか確認しなかった。
データはあったかというとあった。

報告あり



けしからん。明日(予算委で)何て答えよう

14日
国会



(紙、データとも)日報は司令部への報告後に
用済みとなり破棄していたことを確認

15日
大臣室



いつまでこの件を黙っておくのか?

3月15日

報道で陸自のデータ保管が明るみに

16日
国会



報告されなかった

虚偽答弁?

安倍内閣で閣議決定 獣医学部新設「4条件」

日本再興戦略改訂2015（2015年6月30日閣議決定）

- ① 現在の提案主体による**既存獣医師養成でない構想**が具体化し、
- ② ライフサイエンスなどの**獣医師が新たに対応すべき具体的需要**が明らかになり、かつ、
- ③ **既存の大学・学部では対応困難**な場合には、
- ④ **近年の獣医師需要動向も考慮**しつつ、全国的見地から本年度内（2015年度内）に検討を行う。



前川前文科次官

新設が抑制されていた獣医学部については、特区で認めるための4つの条件が閣議決定されているが、**今回の今治市の獣医学部はその条件をクリアしているとはいえず、新設をする明確な根拠がない。**

獣医学部新設に対する自民党内の意見



石破前大臣

不思議ですよ。なぜ、大臣が変わることでこんなに進むのか、新たな条件が出るのか。世間の言うように、総理の大親友であれば認められ、そうでなければ認められないのか。そうであれば、行政の公平性という観点から、おかしい。——週刊文春のインタビューに答えて

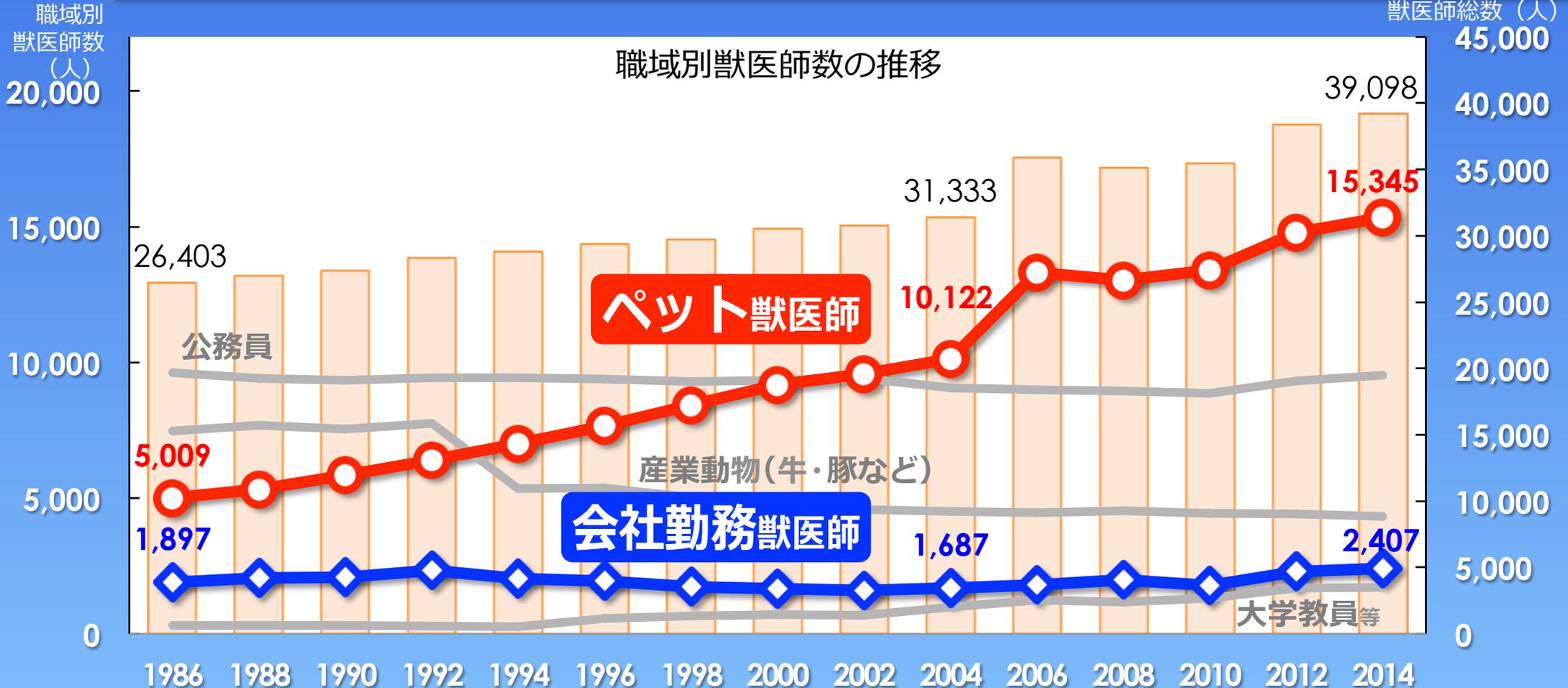


麻生副総理

法科大学院を鳴り物入りでつくったが、結果的に大学院を出ても弁護士になれない場合もあるのが実態。(中略) この種の学校(獣医学部)についても、結果、うまくいかなかったときにどうするかをきちんと決めておかないと(中略) 関係者はいいい迷惑をしてしまう。

——獣医学部新設を決定した国家戦略特区諮問会議での発言

4条件「新たに対応すべき具体的な需要」はあるのか



会社勤務獣医師よりもペット獣医師の伸びが大きい

『怪文書』にたびたび登場する「平成30年4月開学」

藤原内閣府審議官との打合せ概要 (昨年9月26日)

○ 平成30年4月開学を大前提に、逆算して最短のスケジュールを作成し、共有いただきたい。成田市ほど時間はかけられない。これは官邸の最高レベルが言っていること（むしろもっと激しいことを言っている）。山本大臣も「きちんとやりたい」と言っている。

萩生田副長官ご発言概要 (昨年10月7日)

○ 平成30年4月は早い。無理だと思う。要するに、加計学園が誰も文句が言えないような良い提案をできるかどうかだな。構想をブラッシュアップしないといけない。

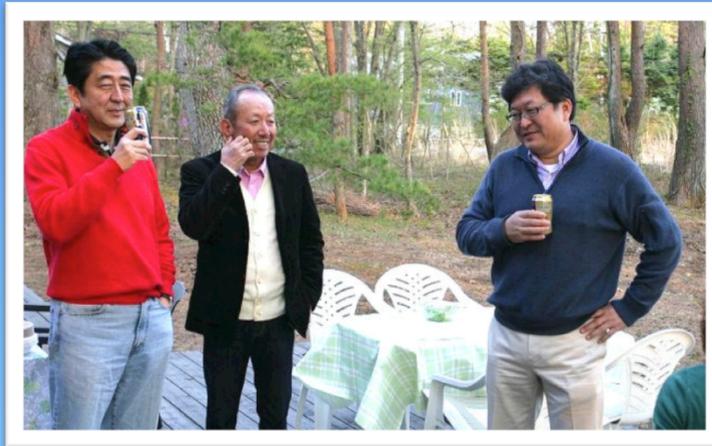
萩生田副長官ご発言概要 (昨年10月21日)

○ 総理は「平成30年4月開学」とおしりを切っていた。工期は24ヶ月でやる。今年11月には方針を決めたいとのことだった。

国家戦略特区諮問会議の基本方針

運営に関する基本的な事項

…**利害関係を有する議員**については、当該事項の**審議及び議決に参加させない**ことができることとするなど、諮問会議における調査審議が**公平かつ中立的**に行われるよう留意する。



加計学園への伝達事項

- 先日、ご説明いただいた構想につき、文部科学省として懸念している事項をお伝えする。
- まず、公務員獣医師養成や人獣共通感染症研究、医学部との連携などは既存の獣医学部でも取り組まれており、日本再興戦略改訂2015との関係で、「既存の獣医師養成でない構想を具体化」や「既存の大学・学部では対応が困難な場合」という観点から、差別化できるよう、よく検討していただきたい。(表現ぶりの工夫が必要。その際、ハードルを上げすぎないように注意)
- 「国際教育拠点」を形成する旨区域方針に書かれているが、先日のご説明では国際性の特色を出す具体的な取組が十分に示されていなかったもので、再検討いただきたい。
- 需要について、先日の説明資料では、公務員獣医師の需要にしか言及がなかったが、毎年定員160名の学生の輩出に見合う応用ライフサイエンス研究者等、獣医高度臨床医の具体的な需要も説明が必要であり、ご準備いただきたい。
- 獣医学部のない四国へ設置することにより、公務員獣医師の確保や地域の防疫・危機管理拠点を形成するとのことであるが、既存16大学では自地域内入学率・就職率ともに低いことから、四国における「具体的な需要」と、地元定着・活用のための具体策も検討が必要である。
- 設置申請に向けて、必要な教員確保や施設整備、資金計画など、万全な準備を行っていただきたい。特に資金については、確保できる額によって、構想の内容も変わってくると考える。確保できる資金と「既存の獣医師養成でない構想」の実現との関係で、十分な検討を行っていただきたい。